



マルト便

MARUTO INFORMATION

ホームページが新しくなりました

マルト商事

検索

お客様の笑顔のために...

チャレンジ

7月号 JUL 2016

<http://www.maruto-shoji.co.jp>



2016年6月16日 北海道栗山地区圃場 若干雨が多く今後の天候次第だが今のところ順調か

時代の転換期

先月6月23日に英国で行われたEU離脱を問う国民投票。結果離脱：残留＝51.9%：48.1%と離脱派が勝利しました。投票前から僅差の勝負となっていました。大方の予想を覆す結果であったようです。英国のEU離脱へはまだ時間がかかることとは思いますが、時代の大きな転換点となりそうです。世界経済にも大きく影響を与えることと思います。

時代の転換点といえ、我々農業分野においても天候がここ数年大きく変わってきているのではないのでしょうか。先日NASA発表の記事を見かけました。世界気温についての記事です。NASAは皆さんご存知の通り、アメリカ航空宇宙局のことです。アメリカの航空宇宙に関わる幅広い分野で研究・開発を行っている機関です。通信販売番組などでも「NASA開発の…」なんてワードが出てきますね。ここで研究開発された内容や素材があらゆる分野で活用されています。そんなNASAが今年の1月に2015年の世界の平均気温が1880年に観測を始めてから136年間で最も高かったと発表しています。20世紀の世界平均気温は13.9℃となっており、昨年はそれを0.9℃も上回って14.8℃となったそうです。実は2014年も過去最高を更新しており、2年連続で世界平均気温は過去最高を更新しています。

さて、それでは今年はどうなのかという、NASAの気象学者ギャビン・シュミット博士が今年の5月に発表した内容によると、「4月は気温と海水温が過去最高を記録しており、このままいけば2016年は99%史上最高に暑い年になる」と指摘しています。つまりは3年連続で過去最高を記録ということになりそうです。これはここ数年続いている太平洋に現れる巨大なエルニーニョの発生が原因の一つと見られていますが、地球温暖化の影響もあるものと思われています。いずれにせよ、確実に世界中で天候異変が起こっていることは間違いのない事実です。

気候の大きな変動は当然のことながら農業のあり方にも大きな影響を与えることでしょう。今年もそうですが、ここ数年九州地方では春先に降雨が多くなっている傾向がみられます。また温度も冬場極端に寒く、その後一気に暖かくなるといったように、雨も気温も極端な動きをしているようです。

一方関東地方ではひどい干ばつの状況が続いており、水がめとなつている北関東の貯水池は軒並み警戒水準を下回り、取水制限が出ています。世界気温のお話をしましたが、日本だけを見ても気候条件がここ数年で大きく変動していることは間違いないと思います。これまで「異常」といわれていた状況が「普通」になる。つまりは毎年異なる気象状況となり得るということは、農作物の栽培においては、常識が通用しない非常識な時代になりつつあるのかもしれませんが。畑で発生する菌や病気も気温や降雨の状況で変わります。害虫なども住みやすい場所に移動するでしょう。それにより今まで防除できていたものが全く防除できなくなる可能性も出てきます。農作物は適地適作といいますが、適地適作がこれまでと同じとは言えないような環境変化が今まさに起こっているのかもしれません。

玉葱が好む一般的な生育環境を右にまとめてみました。現在の日本の玉葱出荷量では1位北海道2位佐賀県3位兵庫県（淡路）です。それぞれの産地の最近の気象条件を鑑みると少し不安になってきます。1位の北海道は玉葱の生育期に梅雨も無く、湿度も低めで気温も本来玉葱栽培にはちょうどいい塩梅です。まさに適地適作。しかし最近はやや梅雨があつたり、気温も30度を超えるような日が続いたり不安定しません。2位の佐賀県は今年は凶作です。鱗茎形成期において多雨・高温となり、日照もなかった為好適環境から大きくそれ、病害虫の発生や肥大前の倒伏といった内容で過去例の無い程の減作となりました。3位の兵庫も病害の発生が増えています。気温の上昇が要因の一つかもしれません。

上記のように、日本国内での玉葱栽培一つをとっても過去とは比較できないような状況になりつつあるのかもしれません。時代の転換期とまでは言いませんが、これまでの固定観念を排除して物事を考える必要があるように思います。

偉そうに色々と書きましたが、今期の玉葱供給において最善を尽くし、来期以降につながるよう努力していきたいと思つています。

【玉葱好適栽培環境】

適地：温帯・熱帯・亜熱帯
 時期：冷涼な季節
 標高：2500m以下
 雨量：年間500～600mm
 相対湿度：60～70%

＜栽培好適温度＞

発芽・育苗：20～25℃
 栄養成長期：13～24℃
 鱗茎形成前：15～21℃
 鱗茎形成期：20～25℃

＜鱗茎形成に必要な日長＞

短日性品種：12時間以下
 中日性品種：12～14時間
 長日性品種：14時間以上



営業課長中村のマルチ便PLUS！ Ver2016

今月もどうぞよろしくお願ひいたします。
 7月のマルチ商事玉葱産地情報&見通しをお届けします！



取扱産地	産地状況 & 今後の見通し
国産	7月も引き続き厳しい状況が続きます。佐賀県産の玉葱が凶作だったため、入荷が安定せず、日々原料確保状況の進捗に頭を悩ましております。一方で新規の産地も多くスタートしており、既存産地様に負けない品質のものが入荷しております。
中国	品質、供給量ともに安定しております。産地は山東省へ切り替わります。現在弊社では中国産剥き玉葱を加工するための新しい工場を、所沢市場内に作っております。完成することで、より良い品質でのお届けが可能になり、生産キャパも増えますので、ご興味ございましたらお問い合わせください。
NZ(黄玉、赤玉)	ニュージーランドの玉葱は4月から始まり後半に入りました。冷蔵保管はしているものの、少しずつ傷みなども発生してきておりますが、例年並みの品質推移と言えます。国産の代替として十分な量を確保しております。赤玉葱はぎりぎりの数量確保で進んでおり、追加が難しい状況です。

※本記事に関するご要望・改善等ございましたらお気軽にご連絡ください。
 お問い合わせはコチラ⇒TEL049-258-5315